

佐賀市における浸水 対策の取組について



令和7年2月5日

令和6年度 筑後川・矢部川大規模氾濫に関する減災対策協議会
筑後川・矢部川流域治水協議会

浸水対策の取組み（排水対策基本計画）

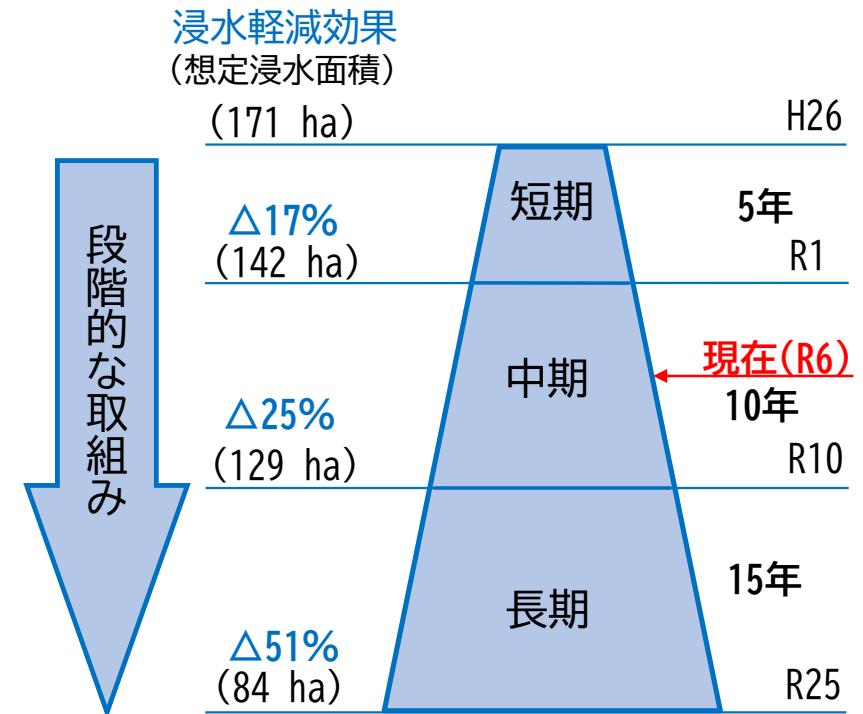
計画概要

○排水対策基本計画（R2.6改訂）に沿って排水対策を強化
（H26～）

- ・ハード対策
- ・ソフト対策
- ・既存施設の有効活用

※「100mm/h安心プラン」に登録（H27.2、R4.5）され、
加速度的に推進

○現在は雨水ポンプ場などの中期ハード対策を実施中



【計画目標】 浸水面積を50%まで減少 [H26-R25：30か年]

※計画降雨：10年に1度の頻度で発生する降雨

現在「気候変動への対応」と「多様な主体による流域治水」の観点から基本計画の見直し中

浸水対策の取組み（排水対策基本計画）

ハード対策

①流下能力の向上（河川・水路の整備）：「流す」

- ・ 準用河川、下水道雨水幹線水路の改修（準用河川地藏川、城東川雨水幹線などを整備中）



準用河川地藏川



城東川雨水幹線

3

浸水対策の取組み（排水対策基本計画）

ハード対策

②排水能力の向上（ポンプ場の整備）：「施設の新設改良」

- ・これまでに雨水ポンプ場を3箇所整備（石塚、厘外、尼寺）
- ・現在、雨水ポンプ場を2箇所計画中（今宿、大中島）



③貯留機能の増強（調整池の整備）：「溜める」

- ・これまでに調整池を1箇所整備（尼寺）
- ・現在、調整池を2箇所整備中
（城東川雨水調整池、川上地区遊水池）

尼寺調整池	33,000m ³
城東川雨水調整池	19,600m ³
川上地区遊水池	11,000m ³
合 計	63,600m ³



浸水対策の取組み（排水対策基本計画）

ソフト対策

①防災情報の提供

- ・ ICTを活用した浸水情報の発信
→ 浸水情報提供システムの公開（R4.4）、→ 佐賀県防災緊急マップの公開（R4.11）
- ・ SNSを利用した防災情報の提供
- ・ 各種ハザードマップによる浸水リスク情報の提供



浸水対策の取組み（排水対策基本計画）

ソフト対策

②地域コミュニティとの連携

- ・ 出前講座や防災学習を通じて自主防災組織等の活動を支援
- ・ 水対策市民会議と連携した河川清掃活動の推進
→年間約8万人の参加



③浸水被害軽減対策（自治会との連携）

- ・ 土のうの提供
- ・ 道路冠水時における自治会によるバリケードの早期設置

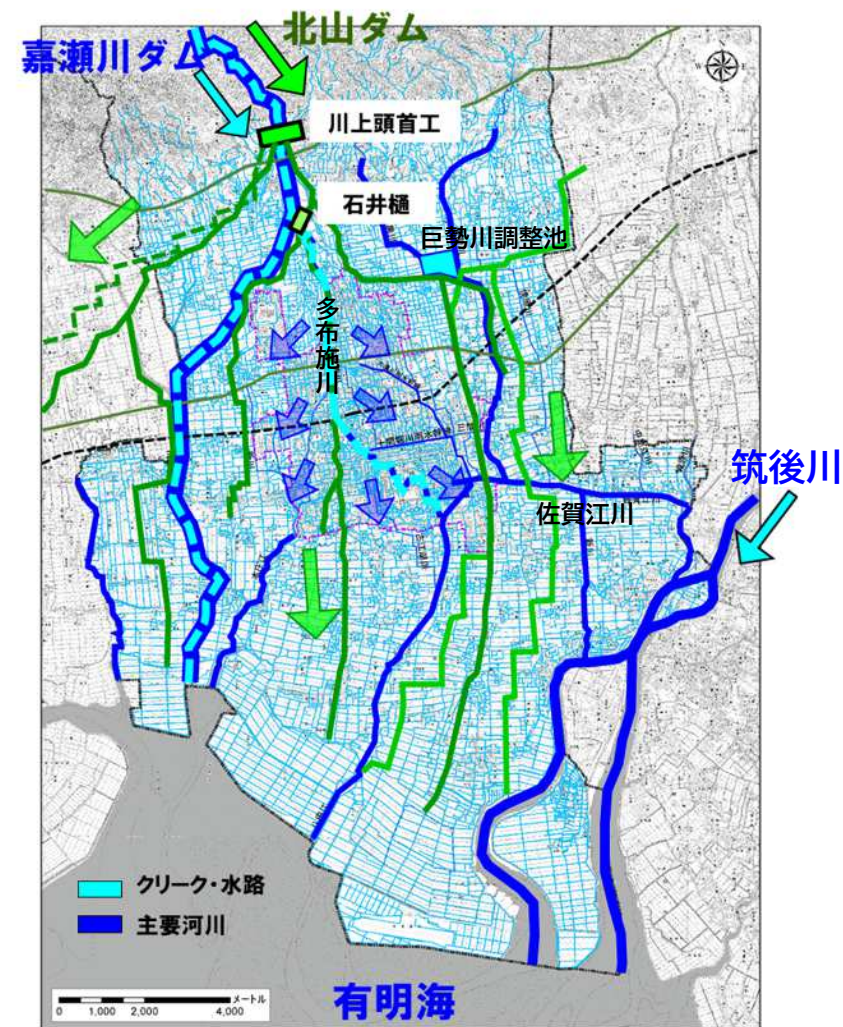


浸水対策の取組み（排水対策基本計画）

既存施設の有効活用

①連携操作

- ・ 佐賀江川の連携操作
- ・ 多布施川・大井手幹線水路等の取水停止
- ・ 巨勢川・黒川の洪水調節（巨勢川調整池）



浸水対策の取組み（排水対策基本計画）

既存施設の有効活用

②事前排水

- ・ 農業用排水路の事前排水（徳永線等）
- ・ 関係機関と事前排水のルール化（試行）
- ・ 大雨警報で「中」か「高」が発表され、24時間最大100mmを超える予測が出た場合に実施
- ・ 主要な国営水路3路線で45万トンを確認



農業用排水路事前排水



浸水対策の取組み（排水対策基本計画）

既存施設の有効活用

③効率的な施設操作

- ・樋門操作の遠隔化（11箇所）
- ・地元と連携した樋門操作

④施設の工夫した運用

- ・佐賀城お濠を調整池として活用（H28～）
- ・事前排水により調整容量をUP（R5～）
→合計56,000トンの容量確保



遠隔操作画面

参考資料

浸水対策の新たな取組み（連携操作）

ワーキンググループ等で決定

R5.6月から試験的に実施

①市内の水路（樋門・堰）＜市＞

気象庁の新たな予測等を活用して、大雨注意報の発表を待たずに、事前排水して水位を下げます。

②佐賀江川（枝吉水門・尾の島水門）＜県＞

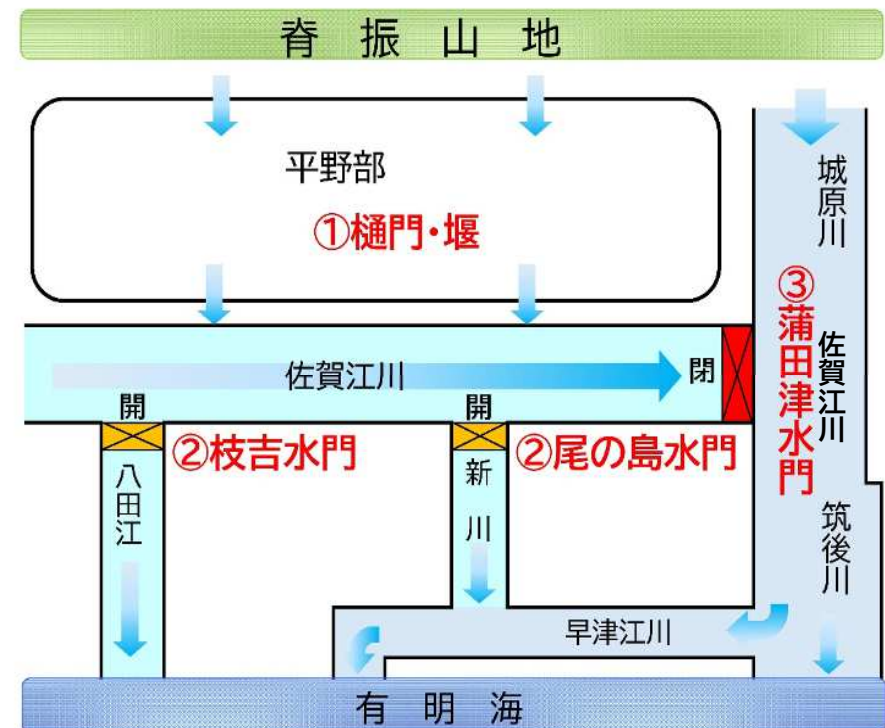
佐賀江川が洪水の恐れがあるときなどに行われていた開門操作を、より早い段階から操作を行い水位を下げます。

③佐賀江川（蒲田津水門）＜国＞

下流の潮位が低いときも閉門して、下流からの流入による佐賀江川の水位上昇を防ぎます。

市内の水路と佐賀江川の貯留容量UP！

佐賀江川の排水系統模式図

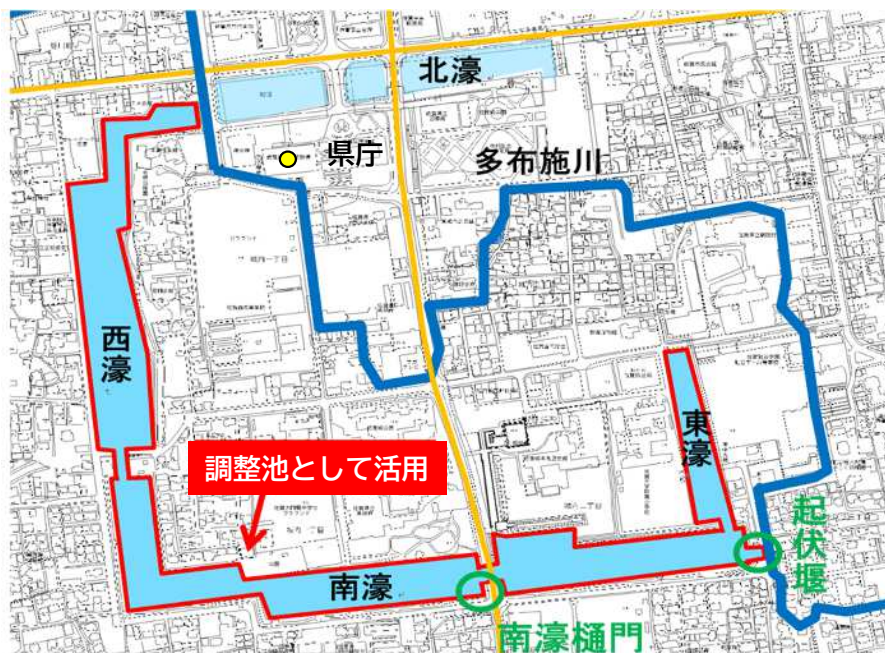


浸水対策の新たな取組み（お濠の事前排水）

お濠の水位を約21cm下げた状態で管理し、

周辺地域の浸水被害軽減につなげます。

位置図



お濠写真



浸水対策の新たな取組み（お濠の事前排水）



● これまでの課題

- ・ 農業用水の利用者等との調整
- ・ お濠の水位が落ちづらい
- ・ 低水位での管理による水質維持

● 繰り返し、協議や試行

● さらなる調整容量を確保

（今後は北濠にも範囲を拡大）

これまでの調整容量

▶ 最大 約37,000トン（約40cm分）

事前排水による調整容量

▶ 最大 約19,000トン（さらに約21cm↓）

合計最大約56,000トン
（25mプール 約180杯分以上!）13

浸水対策の新たな取組み（浸水情報提供システム）



佐賀市スーパーアプリ

浸水常襲箇所92か所の浸水標尺のうち、
29か所の**スマート浸水標尺**で浸水状況が見える！
住民の避難行動に利用されています



ミニアプリ(災害・防災)



- ・ 浸水の水位が見えます。
- ・ 推定浸水範囲が見えます。

■ 1 時間最大アクセス件数

